

建交労・京王新労組支援共闘ニュース

東京都江東区門前仲町1-20-3 TEL 03-3820-8644 2019年12月28日

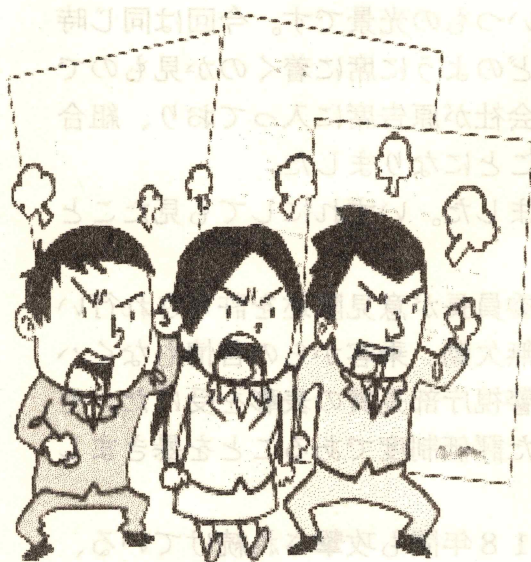


紛争を拡大！

委員長の雇い止めを強硬

継続雇用で佐々木委員長からバス運転の仕事を奪い、生活保護以下の賃金でバスの車両清掃を命じていました。ところが昨年11月にこの車両清掃の仕事すらも奪いました。

運転士の地位を求めて裁判で争う最中での雇い止めです。会社は運転士不足で65歳を超えても会社に留めようと諸策を打っています。それなのに佐々木委員長にはどうしてもバスの運転士をさせないばかりか京王から排除したのです。組合は団体交渉で継続しての雇用を迫ってきましたが契約期間満了で雇用契約を終了するとの一点張りです。職場に残すよう妥協案も示しましたが「取り付く島もない」対応です。



中央労働委員会の命令でも佐々木委員長が求める雇用については救済命令が出され交渉を尽くすよう求めていました。ところが会社の態度は交渉とは程遠いもので結論ありきの回答しかありません。12月27日にも団体交渉を行いました。「11月に回答したところから動いていない」が回答です。労働委員会をもないがしろにする不誠実さは許せません。

委員長雇い止め！都労委に実効確保申立

佐々木委員長を雇い止めたことから、組合は東京都労働委員会に雇い止めに対して実効確保申立を行いました。実効確保とは裁判でいえば仮処分のようなもので緊急に対処する必要がある場合に行うものです。

都労委は時効との関係で毎年の差別に対して申立を行っています。ただ中労委での結論が出ていなかったために審理をしませんでした。しかし、今回、委員長の雇い止めという新たな不当労働行為を行い、争議を拡大したために不当労働行為救済申立を行い、都労委に対して審理を行うよう申し入れました。

既に三者委員も決まり、公益委員は水町 勇一郎東京大学教授、労働者委員には森 治美全国一般労組東京地本委員長、使用者委員には岩下 秀市明治ホールディングス顧問と決まっています。支援共闘と弁護団は森労働者委員と面談して実情の説明を行いました。

第1回の調査が年明けの1月14日10時30分より都庁第一庁舎38階で開かれます。実行確保も申し立ててあることから労使の攻防が展開される予定です。

「吳越同舟」裁判所の原告席に会社と組合が相席！？

中労委不当命令取消を求め労使双方が提訴

中央労働委員会が出した不当命令（一部救済命令）に対して、まず会社が組合一部救済命令部分について命令の取り消し訴訟を起こしました。組合も不当命令部分についての取消訴訟を起こしました。この両者の別の裁判が12月23日同じ法廷で同時刻に行われました。

被告は両裁判とも中央労働委員会（国）で原告が会社と組合ということになります。ご存知のように被告席は傍聴席から見て右側、原告席は左側というのがいつもの光景です。今回は同じ時刻で同じ法廷で異なる裁判が開かれ、原告は会社および組合、どのように席に着くのか見ものでした。いざ開廷されると原告席側にはいつもは被告席側にいる会社が原告席に入っており、組合側も原告席に。結果、原告席は組合と会社の代理人が同席することになりました。

傍聴席もザワつき「吳越同舟」とはこのことかの声も上がりました。いずれにしても見たことのない光景でした。

今回は組合の第一回目の口頭弁論ということもあり、佐々木委員長が意見陳述を許可され行いました。佐々木委員長は自らは32年間無事故無違反、無遅刻無欠勤、乗客からの苦情もなくハンドルを握ってきて会社からも、また会社推薦で警察署長賞、警視庁部長賞の表彰を受けた。それなのに自身の評価が悪いのは京王新労組を敵視して作り上げた評価制度であることを暴きました。

そして生涯賃金では2000万円以上も差別を受け、組合は18年間も攻撃され続けている、こんな組合に入る奴がいるのかと組合存続の危機であり、これが会社の狙いであることも訴えました。

この日の傍聴席も満席となり、裁判官にも重要な事件であることを印象づけられました。

次回は2月17日（月）11：00～東京地裁631号法廷で行われます。会社側裁判の弁論ですが組合が裁判への参加を申立て裁判所が組合参加を認める決定を下しました。会社の相手の被告も中労委ですが、中労委に任せるわけに行きません。労働委員会での攻防が裁判所で行われているのと同じ構図です。是非、傍聴応援をお願いします。

京王電鉄本社前宣伝！

京王新労組支援共闘会議は12月5日の全労連・東京地評争議支援総行動に参加し京王電鉄本社前に於いて宣伝行動に取り組みました。

宣伝は9時より主催者を代表して井澤智東京地評事務局長の挨拶から始まり、支援共闘の代表、三多摩労連、争議団のそれぞれから京王電鉄に対して長くなった争議の解決のため公共交通の役割を果たせと訴えていただきました。

当該からは佐々木委員長が解決をしない京王電鉄の姿勢を批判しすべての争議解決のため頑張る決意を述べ、藤山書記長がシュプレヒコールと（団結がんばろう）を三唱して締めくくりました。

